Ｃ分科会（概要）

幼稚園における教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動について	（協議の視点） 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動において，地域の様々な資源を活かしながら，多様な体験ができるようにするためには，どのような工夫が考えられるか。

【尾道市立三成幼稚園の提案について】

１　研究主題

人との関わりを大事にする預かり保育を目指して

２　取組の概要

①地域の人的・物的資源の生かし方を探る

・地域の様々な資源の発掘，多様な体験活動の工夫

②預かり保育の在り方を探る

・ドキュメンテーションの作成，保育エピソードの作成

３　協議

【質疑応答】

〇預かり保育，もしくは地域との関わりにおいて，どのような課題があると考えているか。

・現段階で地域の資源や人材を活かした保育になっているかどうかが課題である。地域との関わりを，預かり保育を通してどのように充実させていくのかを考えていかなければならない。

〇預かり保育の実態，システム，教育委員会との関わりについての現状を教えてほしい。

・子育て支援という形式でスタートしている。月に 10 日までという利用制限を設けている。共働き家庭もあり，降園してからは祖父母宅で過ごす子供もいる。月に 10 日の利用制限に不満をもつ保護者もいることは事実である。

・地域の方はボランティア（無償）で預かり保育に参加している。地域の方にとっても，孫世代の子供たちと関われることによって喜びの声も聞かれる。（双方向にプラスの効果）

・預かり保育担当教諭は臨時職員で対応。職員は９：30～18：00 までの勤務体制である。午前中も園にいることによって，その日の子供一人一人の様子や，園での活動について連携しやすく，午前と午後の活動をつなげていくようにしている。

・園児総数 31 名に対して 23 名（74%）が利用。

・市内の幼稚園で預かり保育部会を結成し研修を行い，年に一度預かり保育公開研究会を行っている。その部会を通して教育委員会との関わりがある。保育内容，指導計画等を毎年見直しながら，その年の子供の実態に合った一番良い活動を探っている。預かり保育担当者は，ほとんどが臨時職員であるが，担当職員研修も行っている。研修時間をどのように設定するのか等の課題もある。

【協議内容】

〇現代の核家族化や地域コミュニティーの希薄化が問題となる中で，預かり保育においても，地域との関わりを第一義に捉え，実践していることが三成幼稚園の成果であるといえる。

〇幼稚園における教育課程に係る教育（以下，日々の保育）での取組が預かり保育に生きている。核家族化が進む中で，日常的に祖父母との関わりが少ない子供や，孫に頻繁に会えない地域の方がいる。子供はお年寄りと関わり，多様な体験をすることで地域に愛着をもち郷土愛が生まれる。お年寄りは幼稚園に行けば子供達と関わることができるという生きがいにつながっている。それが園の信頼にも繋がるのではないか。長続きできるように子供にとっても教師にとっても地域にとっても無理なく取

り組んでいく事が大事である。

〇預かり保育を利用する理由として,「兄弟の参観日」「子供が行きたいというから」「親のリフレッシュ」等がある。理由は様々だが，それぞれの親の心境を考えることが保護者支援である。

・三成幼稚園の預かり保育で①様々な地域資源の発掘がなされていること②長期的な組織運営がなされていること③保護者へのフィードバックが可視化されていることが評価できる。それらを通して午前中の保育の質をより高めるために①預かり保育担当教員の有効活用による保育の質の向上②午前中の保育との違いは何かを考えること③長期的に取り組むために必要なものを考えることが求められるのではないか。他園と年間計画について交流していくことで見直しを図っていくことも大切である。

【結論】

（１）なぜ預かり保育をするのか考える。

・預かり保育は，幼稚園教育要領第３章に,「地域の実態や保護者の要請により，教育課程に係る教育時間の終了後等に希望する者を対象に行う教育活動については，幼児の心身の負担に配慮するものとする。」と示されている。その預かり保育の意義を考えていくことが日々の保育，預かり保育の質を高めることにつながる。

・「人」の視点では，預かり保育担当教諭の視点を含めて色々な視点から保育を見る,「場」の視点では,預かり保育ならではのゆったりとした時間や空間等の環境づくりをどのようにするかを考える，それらのことが園全体の保育を豊かにし，保育の質を高めることにつながる。

（２）地域の資源について考える。

・運営において負担がないよう無理なく行うことを理想と掲げる中で，幼児にとって充実した保育内容を求めていく。その両極にあるものを調整していくことが幼稚園の役割である。

・子供が地域を巻き込み，それに対して地域も子供を巻き込むといった相互関係を築くことが必要とされる。そのために，地域にどんな資源があるのか理解したり，園の良い所も課題も含めた特徴をアセスメントしたりした上で連携していくことが重要であり，地域と園が肩を並べ，力関係が生まれないようにすることが必要である。

（３）子育て支援・保護者支援の在り方について考える。

・預かり保育の活動の写真を掲示していることが評価できる。写真の中に，その活動における子供の学びについて記し，紹介することで，日々の保育が家庭に持ち込まれやすくなる。子供を通して保護者の意識を変容させることができる。どのようにすれば預かり保育の内容を家庭に持ち込ませることができるのかを考えることが必要である。

・預かり保育を利用することに後ろめたさを感じている保護者も少なくない。子育ての主体は常に保護者であり，預かり保育を利用している保護者を責めることがないようにしなくてはならない。園は，預かり保育を通して子供たちに有意義な時間を保障していることを認識すると共に，預かり保育を利用する保護者に利用理由を尋ねる意味を常に考えることが求められる。